

Vol.051

福島市議会真政会報
— 平成29年10月 —

真政会報

真政会要綱

私たちは地方自治の信念に則り行政に対する監視と提言を怠ることなく、常に市民と行政のパイプ役として「市民」「議会」として「市当局」との三位一体を旨とし、市民福祉の向上と地域の振興・発展、真の市政伸展に邁進することを誓う！



眞政会新役員の新体制が決定

改選から3年目を迎え、眞政会では会長をはじめ新たな体制を会派全員の協議をもって決定しました。会長に黒沢仁、顧問に渡辺敏彦（幹事会担当）、穴戸一照（政調会担当）の両名、相談役に眞田広志（幹事会担当）、尾形武（政調会担当）の両名、副会長に小松

良行（総務会担当）、幹事長に大平洋人、幹事長代行に菅田憲孝、総務会参与に萩原太郎、総務会長に二階堂武文、政調会長に白川敏明、政調会長代行に川又康彦とし、これまで以上にメンバーの役割分担を明確にいたしました。黒沢会長以下12名の新体制で会派一丸、

定例会議の報告

9月定例会議は9月1日に開会し、市長より平成29年度福島市一般会計補正予算等の議案22件及び報告7件の案件が提出されました。提案理由の説明に先立ち、道路除染、生活圏森林除染、仮置き場の設置搬入状況、また本市発注の生活圏森林除染業務委託における不正請求事件の報告等除染に関する件、中核市へ向けての諸手続きの経過、2020東京オリンピック・パリリ

ンピックの開催によりスポーツを通して子ども達の将来性を広げるとともに、イスとのホストタウン交流事業の推進、市政110周年記念事業についての説明、報告等がありました。一般会計補正予算は総額19億7,409万円で、主なものは新最終処分場整備費6,000万円、土湯温泉町地区都市再生整備事業費1億2,800万円、交通安全施設整備市単事業費

会長挨拶 新体制のもとスタート

黒沢 仁

今任期も折り返しを迎え、それぞれの役割を再確認し新たなスタートを切りました。11月19日には福島市長選挙が執行されますが、平成30年4月には中核市への移行を目指し、人口減少対策、大型事業等、喫緊の課題に対応しながら近隣自治体との連携に強いリーダーシップが求められます。福島市議会も市民に選ばれた二元代表制の一翼として、半沢新議長のもと更なる議会改革を進め、我が眞政会は議会の最大会派として市民の負託に応えるためなお一層の責務を果たして、市政のチェック機能にとどまらず市民のための政策実現に向けて努めてまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

各常任委員会の報告

常任委員会は、少人数で専門的に審議をつくすために設置される委員会で、それぞれが所管する事務の調査、議案、請願、陳情の審査などを行います。福島市議会基本条例に基づきさらに頑張っています。
なお、【 】内は当会派のそれぞれの所属議員名です。

総務

(定数9人)

【穴戸・小松・萩原】



【総務部】平成30年4月1日から中核市移行に伴い福島市副市長の定数を1人から2人にする条例の一部改正について、保健所の長たる医師の定年及び医療職給料表を定める改正について等詳細な説明を受けるとともに、慎重に審議し採択いたしました。【財務部】平成29年度土湯温泉地区都市再生整備計画事業

今回の主な補正予算

- 中核市移行関連—行政情報ネットワークシステム運用費・・・2,000
- 中核市移行関連—本庁舎等管理費・・・・・・・・・・13,800 (千円)

文教福祉

(定数8人)

【真田・尾形・二階堂】



【子ども未来部】放課後児童クラブ職員の賃金改善に必要な経費の一部を補助するための事業として、放課後児童支援員等処遇改善事業と放課後児童支援員キヤリアップ処遇改善事業97,251千円を採択しました。【健康福祉部】要介護者の在宅生活を支えるため、定期巡回・随時対応型訪問介護事業所の開設準備経費の補助と認知症高齢者グループホームの施設整備及び開設準備

今回の主な補正予算

- 高齢者福祉施設補助金・・・・・・・・・・115,786
- 小中学校教育就学援助・奨励費・・・・・・・・28,413 (千円)

経済民生

(定数9人)

【渡辺・黒澤・菅田】

【農政部・農業委員会】毎年継続して実施してきた米全量全袋検査のため地域の恵み安全対策協議会へ追加の運営補助(31,600千円)の補正が本年も承認されました。【商工観光部】廃業した旅館を活用しインフォメーションセンターや地域住民との交流スペースなどを備えた土湯温泉町観光交流センター整備事業費(12,800千円)が追加されました。【環境部】平成33年度立子山地区に完成予定の新最終



▲土湯温泉町観光交流センター

処分場整備に係る用地買収・山林取得補償費(6,000千円)などの補正予算を賛成多数により承認しました。なお、その後平成28年度決算審査を行い十分な質疑の結果承認すべきと決しました。

今回の主な補正予算

- 地域の恵み安全対策協議会運営補助費・・・・・・・・31,600
- 土湯温泉観光交流センター整備事業・・・・・・・・12,800 (千円)

建設水道

(定数8人)

【大平・白川・川又】

【建設部】自治振興協議会の要望分12か所の道路改良事業費(115,000千円)の追加の件、又近年の豪雨被害により冠水危険性がある地下道に対し地下道冠水警告灯設置費用を含む交通安全施設整備費として(140,000千円)などを採択しました。市営住宅の空き家を修繕し住宅セーフティネットを確保する住宅管理費(55,000千円)を採択しました。【都市政策部】八島町地区暮らし・にぎわい再生事業



として福島赤十字病院の移転に伴う立体駐車場建設補助費(74,710千円)を採択しました。【水道局】平成33年度運用開始予定の水道施設情報管理システム業務委託について債務負担行為を追加補正しました。決算特別委員会では厳正な審査のもと所管の28年度歳入歳出決算を承認しました。

今回の主な補正予算

- 道路改良事業費・・・・・・・・・・115,000
- 八島町地区暮らし・にぎわい再生事業・・・・・・・・74,710 (千円)

平成29年6月

定例会議で採択された



(抜粋)

請願

- 日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書提出方について (3件)

意見書

- 全国森林環境税の創設に関する意見書
- 日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書
- 県及び市で管理する河川について記録的豪雨に対応できる河川構造に改良するために必要な財政支援を求める意見書
- 農業用ため池の放射性物質モニタリング実施と山間部等における基準値超の放射性物質対策工の実施を国に求める意見書
- 旧リハビリテーション 飯坂温泉病院の跡地無償譲渡及び施設整備費用の援助を求める意見書
- 地方財政の充実・強化を求める意見書

緊急会議と二人副市長制への対応

平成29年8月17日、18日にわたり緊急会議が行われ、新議長に半沢正典議員（真政会）、副議長に栗野啓二議員（市民21）が選出されました。また議会議長に後藤善次議員（公明）が選出され、当会派からは総務

常任委員長に小松良行議員、建設水道常任委員長に大平洋人議員が選出されました。さらに各組合議会議員も決定しました。また平成29年9月1日より開かれた定例会に提出の、議案第八十号福島市副市長定数条例の

一部を改正する件は、当会派においても中核市移行に伴い重要課題や多様化する行政課題に迅速に対応するため副市長の二人制は必要と判断いたしました。この結果、採決においては賛成多数で可決されました。

行政視察

福島市の課題克服に向けて先進地を視察

鉏路市

生活保護自立支援の取り組みで成果

鉏路市では、市民約20人に一人が生活保護者という危機的な中で、ワーキンググループでの議論やモデル事業から得た経験知から対策の核心に至る。一つは被保護者の「自尊心の回復」をカギとし、当事者の生きる意欲、働く意欲を高めること。二

つ目は、当事者の置かれた状態に合わせて、勤労意欲↓日常生活の自立↓社会参加への意欲を滋養していく丁寧なプロセスが大切と解説。「自給者は多いけど、働いている」という中間的就労の稼働率を道内に改善した成果を参考にしてまいります。

網走市

農業の担い手育成事業及び、農産物のブランド化事業

全国的に農業従事者の高齢化とともに、後継者不足が深刻化しています。網走市においては、自治体との連携や地域の特性を生かした農業の担い手育成事業と農産物のブランド化に取り組んでいる先進事例として、気候や規模の違いはあるものの、「農

業後継者及び農村女性育成研修費補助金」「網走市農業担い手実践研修支援事業補助金」等を聴取しました。また、農産物のブランド化においては「網走市高次加工研究所」を設立「産・学・官」の共同運営での成果等を参考に本市に提言してまいります。



▲担い手育成事業やブランド化事業の詳細を聴取



▲生活保護自立支援事業の説明

平成29年度秋季 議会報告会及び意見交換会

開かれた議会をめぐり、議会改革委員会では、よりわかりやすい議会報告会として、意見交換会をあわせて実施しています。今回の議会報告会及び意見交換会では以下の4地域において、6月・9月定例会議の内容を中心に市民の皆様にお伝えいたしますので皆様のご参加お待ちしております。

開催日	開会時間	会場
11/5(日)	午前10時	飯坂支所 2階大会議室
11/5(日)	午後6時30分	三河台学習センター 2階ホール
11/6(月)	午後1時30分	杉妻学習センター 2階大会議室
11/9(木)	午後7時	西支所 2階大会議室

真政会提出の意見書が3件採択されました。

旧リハビリテーション飯坂温泉病院の跡地無償譲渡及び施設整備費用の援助を求める意見書

平成19年3月に廃院となった旧県立リハビリテーション飯坂温泉病院の建物が、今年3月漸く解体され広大な更地となった。これまで本市においては、旧リハビリテーション飯坂温泉病院の跡地利用について、飯坂方部の要望並びに平成19年に福島市保健福祉等施設整備検討委員会において検討された保健・福祉・観光の3つの機能を併せ持つ複合施設の整備といった基本方針を尊重しながら、4回にわたり福島県に対して、跡地の無償譲渡や新たな保健福祉等の拠点施設整備に係る財政支援を行うよう要望してきたところである。しかしながら平成29年1月には病院跡地を有償譲渡する方針を表明するなど、現在に至るまで要望に対する前向きな回答が得られていないのが現状である。

東日本大震災があり、東京電力福島第一原子力発電所事故による不安をいまだ募らせ、風評による被害もまだまだ払拭されない状況の今、跡地への新たな複合施設の整備によって、福島市民のみならず、福島県民の心身の健康を支えるとともに、温泉を活用しながら温泉文化を将来に伝えるための拠点となることが期待される。

よって、県においては、地区住民の永きにわたる要望を重く受け止め、跡地の無償譲渡と施設整備の援助を速やかに行うことを強く要望する。

農業用ため池の放射性物質モニタリング実施と山間部等における基準値超の放射性物質対策工の実施を国に求める意見書

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、本市においては、現在も米の全量全袋検査を続けており、風評被害の払しょくに努めている。さらに市所有等の比較的規模の大きい農業用ため池については、基準値超の放射性物質対策工を順次行っている。しかし、個人所有の農業用ため池については、山間部等の地理的条件などから放射線に対する対策が行われておらず、そのためにまだ放射性物質に対する農家の不安は拭き切れていない。

よって、国においては、速やかに全ての農業用ため池について放射性物質モニタリングを実施し、基準値超のため池については放射性物質対策工を実施するとともに、山間部などの地理的条件が不利な環境においても、放射性物質対策工が実施できるよう新たな技術の確立に努めるよう強く求める。

県及び市で管理する河川について記録的豪雨に対応できる河川構造に改良するために必要な財政支援を求める意見書

近年、地球温暖化等の影響により記録的豪雨が全国で多発しており、農作物や家屋の被害にとどまらず、人的被害も発生するなど、各地に甚大な被害を及ぼしている。特に河川の氾濫による被害は、物的被害にとどまらず、農業生産意欲の低下や住居の移転も余儀なくされる懸念もあることから、河川の改良は喫緊の課題となっている。

そのような中、県及び市町村で管理する河川においては、近年の災害の特徴を踏まえた計画高水流量の見直しを行い、利水・流域環境整備の視点も踏まえた基本的方針を策定し総合的な治水対策を推進するとともに、集中豪雨により都市部を中心に発生する災害に対し、内水排除のための河川工事、都市下水路の整備、下水道浸水被害軽減事業なども併せて行う必要がある。

よって、国においては「水防災意識社会再構築ビジョン」を推進するうえで、県及び市で管理する河川についても記録的豪雨に対応できる河川構造に改良するために必要な財政支援を強く求める。

9月定例会議一般質問（抜粋）

真政会から川又康彦・大平洋人・小松良行・二階堂武文の4名が質問に立ち、市政全般の諸課題を質しました。

乾杯条例の制定を求める件について

Q 風評払しょくが福島市の大きな課題である中で福島市内外に向けて地元の農産物を使ったお酒をPRし、又、果物の一大特産地としてリキュールやワインなどの果実酒製造を奨励するためにも乾杯条例が必要と考えるが見解を伺います。

A 乾杯条例は福島市民の地元の酒に対する愛着や地元団体などを中心とした盛り上がりの上で作られるものとの答弁でした。一方最近では、復興に向けて地元産米やそば粉などを使った酒造りなどの動きが市内各地で始まってきています。酒造りをはじめとした農産物の6次化を促進し新たな産業を創出することを福島市が応援するために今こそ乾杯条例の制定が必要であると要望いたしました。

旧米沢街道、李平宿を本市の観光地として活用する事について

Q 昨年、政府は訪日外国人旅行者を増やすために、神社等の歴史的建物、城跡、郷土芸能のPRを進め、文化財を中核とした観光拠点を創る「新観光戦略」を示しました。

本市においても歴史的な史跡である旧米沢街道並びに李平宿

に関する観光資源が眠っており、これを活かすために当局はどのような考えで活用を検討するか質しました。

A 質問を受けて当局では、歴史的にも貴重な史跡との認識を表明するとともに、吾妻地区郷土史談会からの「庭塚地区多目的休憩施設への旧米沢街道並びに李平宿に関する観光情報コーナー設置を求める要望書」を受け、広く市民に紹介するため関係団体と設置に向け、協議に入りたいとの極めて前向きな方針が示されました。

これにより、観光拠点としての活用へ一步を踏み出す事となり、今後の進捗が期待されます。

廃校の利活用について

Q 廃校となった旧茂庭中学校や旧大波小学校は、現在、地域イベントや地区民の交流事業に対し、貸し出しを行っているが、企業誘致やスポーツ合宿向けの施設への転用や芸術・文化活動団体の利用等積極的な活用を行うべきと質しました。

A 廃校施設の利活用は、「市公共施設等総合管理計画」の基本方針に基づき、学校施設としての特性を生かし、生涯学習等の教育施設、その他の行政需要での活用を行って

います。

生ごみ処理容器利用激減で排出量が大幅増加

Q 生ごみ処理容器について助成費の推移から見ると、平成12年度の57.5基から、平成27年度は44基、7.7%に激減しました。単純化すれば、53.1世帯分の生ごみが毎日、生ごみ処理容器でたい肥等になるか、そのまま生ごみとして365日出され続けるかでは大きな開きが出ることは明らかです。この比較における、およびその生ごみの増加量を伺います。

A 平成12年度の生ごみの減量効果を推計すると約1,470トン、27年度は約1,400トンです。約1,330トンの生ごみがそのまま捨てられた、すなわち、増加したと推計しております。今後は、市政だより等を通じ、助成制度の利用を働き掛け、ごみの減量化を推進してまいります。

今回の一般質問の全文内容は、福島市議会ホームページ【<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/site/gikai/index.html>】の「議会録画中継」でご覧いただけます。

尾形 武
相談役
文教福祉常任委員
松川町浅川字大古内9
TEL : 548-7683

真田 広志
相談役
文教福祉常任委員
議会議事運営委員
松浪町 1-15
TEL : 526-3201

宍戸 一照
顧問
総務常任委員
監査委員
荒井字上町裏 10
TEL : 593-1035

渡辺 敏彦
顧問
経済民生常任委員
松川町字青麻山 3
TEL : 567-2660

黒沢 仁
会長
経済民生常任委員
飯野町大久保字
谷津 44
TEL : 562-3582

二階堂 武文
総務会長
文教福祉常任副委員長
決算特別委員理事
町庭坂字内町 51-2
TEL : 591-1138

萩原 太郎
総務会参与
総務常任委員
議会議事運営委員
決算特別副委員長
山口字下屋敷 28-2
TEL : 535-4693

誉田 憲孝
幹事長代行
経済民生常任副委員長
議会議事運営委員
本内字西畑 4-6
TEL : 553-7030

大平 洋人
幹事長
建設水道常任委員長
八島田字東本庄町 4-27
TEL : 559-2043

小松 良行
副会長
総務常任委員長
瀬上町字東町 2-6-10
TEL : 553-0647

編集後記
議員の任期も後半となり、4常任委員会の所属の変更とともに、真政会においても会長はじめ役職が変更となりました。更なる熱意と責任をもって市政の発展に取り組みたいと願います。
この会報も議会開催ごとに年4回発行しておりますが、市民の皆様からご意見やご要望が寄せられており感謝申し上げます。ご意見等につきましては回答をさせていただきます。詳しい話をお聞きしたい場合もありますので連絡先を記入の上ご意見等をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

川又 康彦
政調会長代行
建設水道常任委員
議会議事運営委員
飯坂町字湯町 25
TEL : 542-4251

白川 敏明
政調会長
建設水道常任委員
議会議事運営副委員長
飯坂町字中原 36
TEL : 542-4041